

○ 開催の背景

既存の大型気象レーダーと比べて、観測範囲が小さく(注1)、局地的な豪雨や竜巻、急な天候の変化を適切に検出できる低廉な気象レーダーの実現が求められている。

○ 開催の目的

主に船舶や航空機等のレーダーに使用されているX帯の電波(注2)を利用した、小型の気象レーダー用の無線局を免許するために必要な基準等の策定に資する技術的な検証及び運用条件の検討を行う。

○ 検討課題等

既存の船舶や航空機のレーダーに有害な混信を与えない技術的条件及び運用上での条件や制限の要否の検討のほか、小型気象レーダーの仕様等を検討する。

○ 効果

安価で小型軽量のレーダーが実現されることで、必要な場所でのスポット的な観測や複数配置による緻密な観測が可能となる。

○ 開催状況

本年7月6日に第1回調査検討会及び第1回作業部会を、中国総合通信局内で開催。現在、実証試験実施中。

- ・ 座長： 広島大学大学院 河原 能久(かわはら よしひさ)教授
- ・ 座長代理((兼)作業部会長)： 広島市立大学大学院 高橋 賢(たかはし さとし)准教授

注1：気象レーダー用の周波数帯は、5.3GHz帯(C帯)のほか、9.7GHz帯の電波が割り当てられており、主に大型(アンテナ径2~5m)のレーダーに使用され、これにより最大100km~300km程度の範囲を観測。本調査検討会では、0.5~1m径程度のアンテナのレーダーにより、最大30km~50km程度の観測範囲を想定。

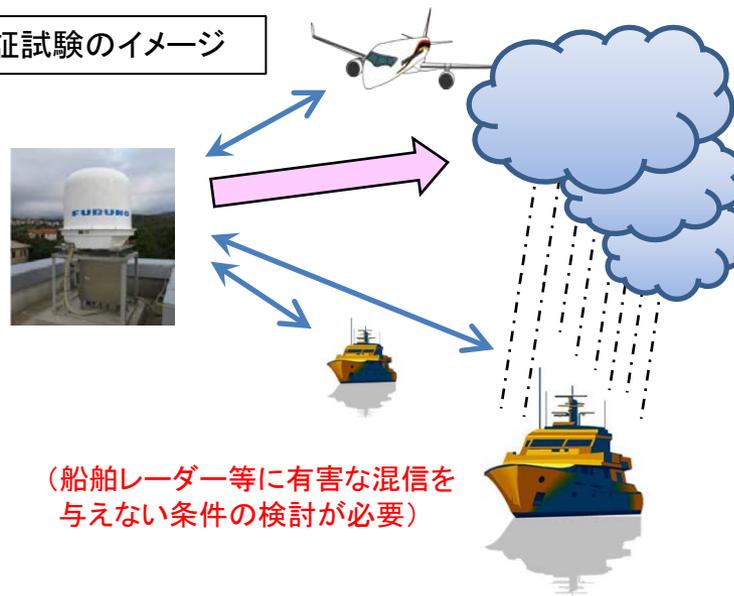
注2：9.4GHz帯の周波数(9.3GHz~9.5GHz)の使用を想定。

【主なスケジュール】

<調査検討会>

- 7月6日 第1回会合
- 10月~11月 実証試験
- 12月 第2回会合
- 平成28年2月 第3回会合  
(調査結果取りまとめ)

実証試験のイメージ



小型気象レーダの観測画像例

